テーマ２　北海道観光の魅力UP

①「わが村は美しくー北海道」運動～参加しよう 広げよう いいもの伝えよう～

【背　景】北海道の農山漁村は、安全で安心な食の提供に加え、豊かな自然環境や魅力的な農村景観が広がっていることから、多くの人々が訪れています
【ねらい】地域の個性を活かした、都市と農山漁村の交流を促進します

これまでの取り組みと成果

〇学識経験者による「北海道田園委員会」において、運動の推進や支援のあり方を検討しています。
〇コンクールは2年に1回開催し、第1回（平成14年）126団体、第2回（平成16年）197団体、第3回（平成18年）217団体から応募があり、運動の輪が広がっています。

【景　観　部　門】
幌加内町そば活性化協議会

【地域特産部門】
下川町森林組合

【人の交流部門】
田んぼdeミュージカル委員会

展開内容

〇北海道内の農山漁村では、地域の魅力と活力を高めようとする方々による、「景観を育てる」、「特産物を育てる」、「人の交流を育てる」地域活動が行われています。

〇北海道開発局は、道内各地域の方々の努力と行動に光をあて、その活動を全国に伝えるとともに、これらの活動の支援を目的にコンクールを実施しています。

〇平成19年12月14日に「わが村は美しくー北海道」運動地域セミナーin旭川を開催し管内で活躍している応募団体をPRするとともに、運動の輪を広げました。

テーマ2　観光の魅力UP
②観光力・防災力の向上がつくる天塩川流域の地域振興

【背　景】 天塩川流域観光を展開するためにはガイドの育成が急務となっている。
流域の過疎化、異常気象が進行するなかで防災に対する住民の自助力、共助力の向上が課題となっている。

【ねらい】 観光ガイド、防災教育インストラクターを兼ねたガイドの育成と防災研修地としての地域づくりを行い、流域の防災力向上と研修生等の受け入れによる地域振興を図る。

関係機関の協働により作成したパンフ

毎年開催されるカヌーツーリング

天塩川テストツアー（北海道命名の地の碑）

これまでの経緯

・平成14年7月　天塩川新聞を創刊。
・平成16年7月　天塩川流域ガイド発行。
・平成16年10月　北海道遺産に選定される。
・平成16年11月　朔北の大河「天塩川展」開催。
・平成17年9月　天塩川テストツアー実施。
・平成18年7月・9月　天塩川モニターツアー実施。

展開イメージ

〇北海道、地元観光協会、防災関係者等と協働して展開する。

〇取り組み概要

・天塩川を軸とした地域の振興・活性化及び再構築のための連携・推進方策等について検討する協議会、専門部会の設立、開催。

・モニターツアーの実施により抽出された課題である、天塩川の流域の魅力を紹介するガイドの養成、体験プログラムづくりを地域と連携して、観光と防災教育のスキルを備えたガイド育成、及び流域内はもとより道内外から研修生が訪れる北の防災研修地づくりを進め、地域の安全性の向上と地域の活性化に結びつくよう支援しています。

〇今後の展開

・天塩川流域観光ガイド教本、養成プログラムを作成し、養成機関について検討する。

・天塩川流域の豊かな河川環境を活用した自然体験学習プログラム、レスキュー資格取得支援方策を検討する。

テーマ2　観光の魅力UP
③朔北の大河・天塩川と松浦武四郎史跡巡り

【背　景】 天塩川流域内の市町村では、地域活性化の具体目標として交流人口の増加、観光の発展が期待されている。

【ねらい】 川にまつわる歴史を観光や教育などの資源として活用し、北海道遺産「天塩川」の魅力を高める。

天塩川を活かした地域づくりフォーラム
（平成19年3月15日開催）

天塩川モニターツアー
（平成18年9月9～10日実施）

これまでの経緯

・平成14年7月　天塩川新聞の発行
・平成14年10月　パンフレット「北の大河・天塩川と武四郎」発行
・平成16年7月　「天塩川と松浦武四郎」講演会の開催
・平成16年10月　天塩川が北海道遺産に選定される。
・平成17年3月　天塩川を語るつどいの開催（中川町）
・平成17年9月　天塩川観光テストツアー実施
・平成18年2月　天塩川を語るつどいの開催（美深町、風連町）
・平成18年7月・9月　天塩川モニターツアー実施
・平成19年3月　北海道遺産天塩川を活かした地域づくりフォーラムの開催（名寄市）

展開イメージ

○NPO法人天塩川リバーネット21と協働して展開する。

○取り組み概要

流域の歴史をアピールし、観光後進地といわれる上川北部の貴重な観光資源である天塩川の魅力をより多くの人に知ってもらうとともに、流域住民が川と人とのかかわりを思い起こすきっかけとなるよう支援しています。

○今後の展開

今年は特に、北海道の名付け親である江戸末期の探検家松浦武四郎が天塩川流域を踏査してから150年目にあたる記念の年となるため、地域をあげた取り組みを展開する。

・平成19年6月7日　三重県にある松浦武四郎記念館館長の来道に合わせ「北海道遺産　天塩川を語るつどいin名寄」を開催。
・松浦武四郎の足跡を伝える看板を流域に順次設置

・天塩川流域の誇りと魅力を探る地域学の創設
　第1段階　地域学研究組織の立ち上げ、天塩川流域辞典の編集
　第2段階　天塩川流域辞典の発信、天塩川大学講座の開設

松浦武四郎　天塩川日誌の24日間